

災害用井戸を紹介

日さく

地域防災EXPO

日さくはこのほど、東京・有明の東京ビッグサイトで開催された地域防災EXPOに出展、災害用井戸（防災井戸）を中心に同社の製品・技術を紹介した。

災害時には、飲料水は

もちろん、トイレや洗濯、掃除といった衛生面を支える生活用水の確保が重要になる。同社が手がける災害用井戸を整備しておけば、水道水の供給が途絶えた場合でも、生活用水を確保することができます。また、浄水設備を設置し水質検査をク

リアすれば、飲用水としても利用することも可能になる。

同社の災害用井戸は、ベローズの伸縮によって地下水を揚水する方式を採用しているため摩耗部分がなく、従来のハンドポンプに比べ、耐久性が向上している。また、ポンプ部を水面下に据え付ける構造のため呼び水が不要で、地下水位が低い井戸でも優れた揚水能力を発揮する。

同社の担当者は、「災害時に水を使用できないと被災者は不安になる。当社が提供する災害用井戸は、調査から設計、施工、維持管理までトータルでサービスを提供できるのが当社の強み。当社の社長（若林直樹氏）は『我々はエッセンシャルワーカーだ』と常々言っ

ており、地域および地域住民に貢献できる仕事。求められれば全国どこでも伺いたい」と話した。

このほか、地中レーダー探査やレーザーキャナを用いた集水井内の維持管理についてもPRした。



地域防災EXPOでのブース

必要とせず、子どもから高齢者まで誰でも水を楽にくみ上げることができるよう。モーターポンプのように動力源を必要としないため、限られたスペースでも設置することができ。ポンプのハンドル部は着脱可能となっており、

同社の担当者は、「災害時に水を使用できないと被災者は不安になる。当社が提供する災害用井戸は、調査から設計、施工、維持管理までトータルでサービスを提供できるのが当社の強み。当社の社長（若林直樹氏）は『我々はエッセンシャルワーカーだ』と常々言っ

ており、地域および地域住民に貢献できる仕事。求められれば全国どこでも伺いたい」と話した。

このほか、地中レーダー探査やレーザーキャナを用いた集水井内の維持管理についてもPRした。

水道産業新聞

2025年（令和7年）8月4日（月曜日）